

● 新指定答申文化財の概要

【種別】有形文化財 古文書

【名称】大宝院文書（だいほういんもんじょ）

【員数】50通4冊、附6点

【所在地】津市大門32-19 大宝院

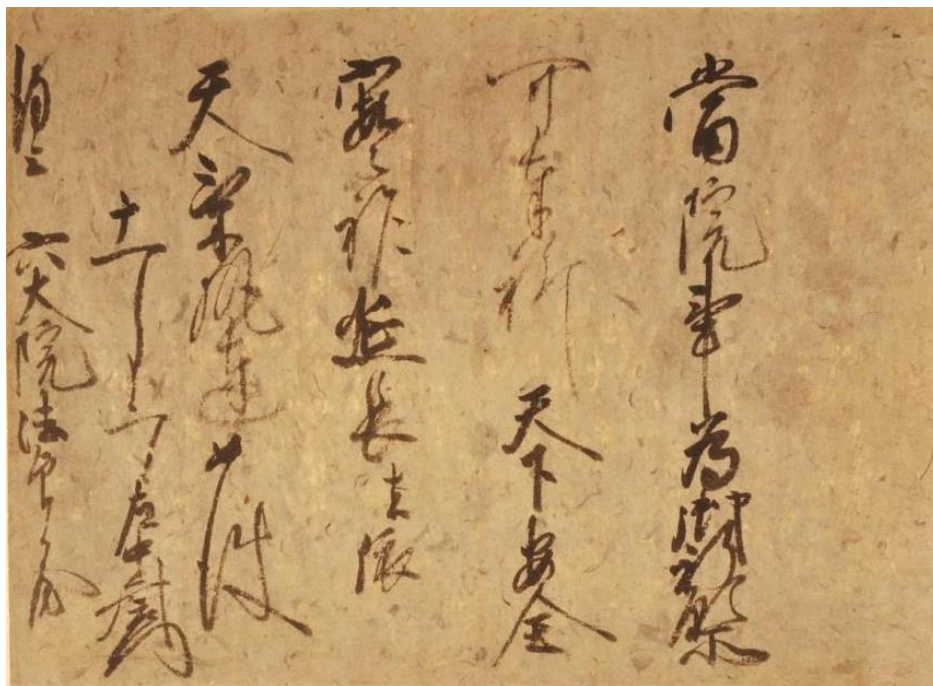
【年代】室町～江戸時代

【規模】縦32cm、横44cm（御土御門天皇綸旨）

【概要】

津市大門に所在する観音寺（津観音）の本坊である大宝院に伝えられた、室町時代から江戸時代にかけての古文書群です。大宝院の前身である六大院に関する後土御門天皇の綸旨や、天皇に仕えていた女官の手紙（女房奉書）のほか、醍醐寺末寺であった六大院に関する文書、豊臣秀吉が行った「太閤検地」の検地帳、豊臣秀吉や徳川秀忠による寺領安堵状などがあります。

この古文書群は、室町時代の綸旨や女房奉書がまとまって残されていること、地方寺院と中央（京都）寺院との関係が知れること、などが特徴です。学術的・文化的な価値が極めて高い、県内第一級の資料です。



土御門天皇綸旨（伝後花園天皇綸旨）